

今日は新入生歓迎のための講義にお招きいただきまして、ありがとうございます。本当に、今日が最初の講義のある日ということで、皆さん楽しみに来てらしたと思います。私もそういう日があったんだな、と思い出すのですけれども、具体的にどんな日だったかまでは思い出せません。ただ、とても楽しい日だったというかすかな記憶が出てくるわけです。

今、新学年を迎えるにあたって、どういう話をしたら一番良いのか、そして、これをきっかけに、どういう学問するかも考えて欲しい、というご紹介の言葉があったのですが、学問領域から言えば、おそらく、国際政治史であり、国際関係論であり、それから、政治学であり、あるいは、経済学かもしれないのですが、今日お話しすることはむしろ、皆さんには、とにかく、広く世界に目を向けてほしい、そして、その世界は実は、矛盾を孕む世界である、したがって、答えのない世界である、と私は考えているわけです。ですから、今までは、大学に来るという大きな目的のために、いろんな答えを揃えて、生活してらしたと思うのですが、これからむしろ、いろんなものにぶつかってみて、新しい答えを探していく、こういうような数年をお過ごしになるんじゃないかと思うのです。というのは、本当に激しく変わっていく今の時代で、あまりきちっとした答えはないんですね。答えがあったら間違っている。そういうことを申し上げると試験はどうするのだろう、という問題が出てくるかもしれませんが、実に矛盾を孕んだ、世界の中に我々がいるのだ、と。しかも、日本だけを見ますとあたかも繁栄の中で安定した暮らしがあるかに見えるのですが、実は、日本が依存している世界の中は相互依存の形であって、どういう形で何にいつまで依存できるか、ということはあまりはっきり出てこないだろうと思うのです。世界がある程度の安定と、その安定は相互依存によるものなのですが、その相互依存のあり方ということがはっきり出てこないのです。感じられないんじゃないかと思うのです、みなさんの毎日の生活の中で。

そういう中で例を出しますと、つい数日前の新聞にも、地球温暖化の現象が大きく報告書として、国連の有識者の中から出てきたということがあったわけです。気候の変動作業部会“IPCC”から出た報告書によりますと、地球温暖化によって、2050年には水不足の弊害が新たに10億人以上も増える。今は11億人が水不足の中で暮らしているのです。それがさらに2050年にもなりますと、10億人以上増えるから、予想としては、21億人が水不足の中で暮らす。それは、どういう意味があるのでしょうか？食料も、医療も、それから、あらゆることに影響がある状況が予想されるのですが、それに対応する答えというものを私たちは知っているのでしょうか？先生方教えて下されるのでしょうか？それからまた、全生物種の20%乃至30%が絶滅の危機を迎えるだろう。これは、どういう意味があるのでしょうか？海面の上昇や氷河の融解による洪水のリスクが増えてきている。旱魃と洪水というものに対して、私たちはどれくらいの用意があり、どのようなプロセスを経て、それに対応していくのか。また逆に、非常に高度な武器というものが、発達しているわけです。しかし、それに対応するには、高度な武器の開発なののでしょうか？suicide bombingといわれていますが、一人ひとりが絶望的な中から、suicide bombingという形で対応する、という現実もあるわけですね。また、病原菌が蔓延していることも知っているわけです。いろんな薬が開発され、それがまた逆にいろんな命の危機を起こしている、と。タミフルで、私は聞いたことないのですけれども、そういうものの現象も、私たちの生活の場合にはある。そういうことを考えますと、ものすごく激しく変化している現実世界に対する私たちの対応というのは、いかにも不足の部分が大きいということを感じられるわけです。